

# GREEN RANGER NEWS

2014年8月号

Vol.257



NPO 法人蔵王のブナと水を守る会事務局  
〒989-0231  
宮城県白石市福岡蔵本字滝下102  
Tel & Fax 0224-25-3820  
URL <http://www.zao.org/>  
e-mail mail@zao.org

## ■ 8月の活動報告

[定例会]8月10日

雨天のため中止となりました。

[森の教室]8月24日(日)

午前中は植物調査班、枝打ちと自然観察路の杭打ちをする班、樹名板用の板を加工する班に分かれて作業をしました。午後は10月のイベント「自然観察路見学会」の打ち合せをしました。この日の参加者は8名でした。

## ■ 9月の活動案内

[定例会]

開催日 9月14日(日)

集 合 場所のわからない方、JR 利用の方

9:30白石市役所駐車場

自力で来られる方

10:00 苗畑(深谷)

内 容 午前 苗畑の草取り

午後 枝打ち、樹名板作り

[森の教室]

開催日 9月28日(日)

集 合 作業小屋(丸太小屋) 10:00

内 容 植物調査



設置した巣箱に営巣の痕跡が  
(8/24 森の教室にて)

## 植林地内の動物

仲村 得喜秀

### 1. 熊

熊は人間社会の中では危険な動物と思われ、必要以上に特に都市部では恐れられています。もっと人と共存して行かなくては行けない事を理解する教育が必要だし、体験も必要です。この植林地の中では現在、春、夏、秋と熊が現われてきます。春は植林地の中で大量に生育しているナンブアザミのものと思われる繊維質の強いものが未消化の状態で見られます。夏はクワの実を食べにやってきて、小さな熊棚を作ったりします。糞の中には小さなクワの種子がたくさん入っています。秋にはヤマナシの果実を食べにやってきます。おかげでヤマナシの木は上に伸びようとする幹を折られてしまい、横枝ばかりが伸びる樹形の悪い木になっています。ヤマナシの果実は私たちが食べてもおいしいものです。熊がアリの大好きな動物である事は良く知られていますが植林地内の腐木をひっくり返しているのは、熊がアリを食べるためと思われれます。

2012年の秋はコナラ、ミズナラ共にドングリの不作の年でした。4～5年に1度豊作になるというブナももちろん不作でした。こんな年でもクリは果実をたくさんつけていました。植林地内にあるクリの木には全て熊棚ができていました。まだ熟していない果実を食べているので、その餌不足の深刻さがわかります。そしてクリの木の下には果実をつけた枝がたくさん落ちていました。これは親熊が小熊に餌を与えるためだと、昔山仕事していた時仲間の老人から教えられました。こんな年の熊はやはり危険かもしれません。ドングリが全て不作という年は7～8年に1度と聞いたことがあります。

熊は秋に食料をたくさん食べて、冬眠、出産に備えます。食料不足だと受精はしていても、妊娠はしないそうです。又、子供の出産は全て未熟児ということなので、子育てにもエネルギーを使います。餌不足は他の動物以上に深刻だと思います。

白石市制50周年の記念植樹の場所は当初、白石蔵王森林組合がその刈払いを行っていました。私の知人の A さんが、「熊の子供を切ったから、見てこい」と、そこにいた私に言いました。私は言われた場所に行ってみると、そこに灰色の握りこぶし大の小さな熊の子が内蔵をはみ出させていました。目はまだ見えていないようでした。お腹が上下していたのでまだ生きていたと思います。サッカーボールぐらいの子供は見たことがありますが、まさかこんな小さな子供がいるとは意外でした。今から考えると未熟児出産というもうなずけます。

私が約30年前にここに住んでいた頃蔵王開拓は、全世帯で酪農を営んでいました。直径が40cm以上のヤマナシの木も何本かあったし、直径30cm ぐらいのこんもりとしたマユミの木もありました。畑はデントコーンが作られていて、熊は常に出没していました。一晩でデントコーン畑が1000㎡ぐらい荒らされる事はザラにありました。ヤマナシの木にも爪跡がたくさんありました。今蔵王開拓では、酪農は行われていません。デントコーン畑もヤマナシの大木もなくなって、熊は一時出没しなくなったようです。しかし、私たちが森づくりを始めた事で、また出没するようになったのです。本来は熊のテリトリー（縄張）なのですから、人間の方がもっと気を配るべきなのです。熊の大好きなヤマナシの大木を育てたいものですね。

### 2. イノシシ

ある日、何者かが植林地最上部の昔の建物跡の地面を掘り起こしていた。最初は熊かと思ったが、熊は腐った木などはひっくり返すが、地面は掘らないはずである。その正体が分かったのは次の年でした。近くにあった水たまりの泥の中にカモシカより小さなひづめの足跡があったのです。まさか標高700m ぐらいあるここにイノシシが出現するとは思ってもいなかったので意外でした。小さな水たまりは、蔵王開拓の各家に送水している給水タンクからオーバーフローした水が作り出していた物です。イノシシは、そこをダニや体のゴミを取るためのヌタ場に利用していたのです。地面を掘り返す力はトラクターを思わせる程凄まじいものです。

植林地ではイノシシの被害を2件程受けています。1つはヤマユリの根を掘られ食べられてしまっている事です。実に見事に次から次と掘っています。食べられた跡にはヤマユリの茎が残っています。

もう1つは、カシワの植林木におそいかかっている事です。まだ小さなカシワの木はイノシシにおそわれ皮を剥がされ、枝を折られ、ひどいものは掘り出され枯らされています。同じようにドングリを実らせるブナ科コナラ属のコナラ、ミズナラ、クヌギ、アベマキには何もしていません。イベリコ豚はヨーロッパミズナラのドングリを食べておいしい肉になるといわれていますが、その事とカシワの木におそいかかるのと、何か関係があるのでしょうか。

イノシシが植林地に出現し始めたのは2010年頃からだと思います。以来、毎年ぬた場は使われているので、被害は多少ありますが居続けている事がわかります。白石市はイノシシの被害に悩まされています。山菜採りで歩く山奥にもイノシシの足跡があります。信じられないような急斜面にもイノシシ道は作られています。今後数が増えない事を願っています。そしてついに2014年にイノシシに出逢ってしまいました。夕方4時頃、屋島さん側の植林地の刈り払いを終え、小屋に帰ろうとした車の前に突然イノシシが飛び出してきました。あわててブレーキをかけましたが、車と軽く接触してしまいました。色が真っ黒だったのは意外でした。せっかく蕾をつけるまでになったヤマユリを次々と食べられるのは特に腹が立ちます。これからイノシシなのかイノブタなのかはわかりませんが、それとどう付き合っていけば良いのでしょうか。頭の痛い問題です。